（様式1）

自己評価票

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本人の希望、慣れ親しんだ生活の継続と触れ合いを通して安心できる生活作りを理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人、事業所の理念は名札の裏に記入し、朝の申し送りの際復唱して業務に活かせるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、理念についてわかりやすく説明している。また、玄関に掲示している。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	広報誌を通じて取り組みについて報告し、また、法人の行事や、地域の行事には積極的に参加して地域の方々と触れ合う場を設けている。ボランティアや慰問の受け入れについても取り組みがなされ、交流の機会を設けている。運営推進会議を通じて、地域の方々と意見交換を行い、太陽の家の取り組みや認知症の理解等について説明している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の目的を職員全員に伝えている。自己評価は全員で取り組み、外部評価の結果についても報告し改善に繋げている。また、運営推進会議を通じて再度、家族にも実施の目的を報告しサービスの質の向上に努めている。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、サービス状況や外部評価の改善点の報告を行っている。又、要望や意見をだしてもらい、サービスの向上に努めている。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通じて事業所の理念や取り組みを伝え理解を得ると共に、意見等の引き出しを行っている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議や研修を通じて理解を深める機会を設けている。対応が必要な際は、支援できる体制にある。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会を通じて、理解の浸透に努め取り組んでいる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接を行い、解りやすく説明して不安や疑問点がないか確認しており、その上で同意書を得て契約、解約を行っている。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。普段から何でも言える雰囲気作りや利用者間の会話から、不満や意見がないか注意している。ようぼうや意見が出された時は改善に向け、職員で話し合いを行っている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している園便り、3ヶ月に1回の季刊誌（トピックス）を送付し、取り組みについて報告をしている。また、健康状態や病院受診前後の報告を行い、出納に関しても、通帳の写しと領収書を送付し、詳細を明らかにしている。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声を掛け、要望や意見を気兼ねなく話せるような雰囲気作りに配慮している。出された意見は、申し送りを行い、話し合いをして、日々のケアに活かすよう努めている。意見箱を設置している。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議を通じて、意見や要望を聞くようにしている。また、日ごろから、コミュニケーションを図るよう心掛け、意見の引き出しに努めている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入所者の状態やペースに合わせた勤務形態となっている。必要に応じて、併設されている部署からの応援体制が、確立されており、その際は、なじみのある職員が配置されるように留意している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入所者、家族との信頼を築く上で、なじみのある職員の対応を心掛けている。やむを得ない異動や離職の際は、時期や引継ぎで最善の努力をしている。新しい職員が入る場合は、紹介をして関係作りに努めている。		
5．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は、受講する機会を設けている。また、受講した内容は、復命と口頭による研修報告を行うと共に、閲覧できるようにし、話し合いにより意見やアドバイスを受けている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議（ＧＨ協会等）を通じて、交流の場があり、意見交換等を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会があり、年度計画に沿って交流の場を設けている。また、日常的にコミュニケーションを図り、ストレスや悩みについて解消するように努めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けた、講習会を行い、本人の意向を把握し、活かせるよう配慮している。また、不安や悩みについても日常的にコミュニケーションを図り把握に努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に際して、現状を把握し不安感や思いを汲み取るように努め信頼関係の構築に努めている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの経緯と現在の状況を把握し、信頼関係を築きながら、入所までのサービス調整を行っている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームについての説明を行い、話し合いを持ち確認をした上で入所に繋げている。入居後は、家族等へ面会を依頼し、在宅の継続性を自覚し、安心感が得られるよう支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であることを、常に念頭に置き、様々な場面を通じて、教えて頂く事が多い。相談したり、されたりと支えあう関係作りに努めている。また、場面の設定や、声掛けの工夫をして、その人が主役となれるような働きかけをしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	連絡をしたり、面会時等を通じて、日々の暮らしの状況や気付きを報告している。また、家族から情報提供して頂き、日々のケアに活かしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の依頼や行事への参加を呼びかけたり、盆、正月以外にも外出、外泊の機会を作り、一緒に過ごせるよう関係作りに努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた理髪店や病院の継続利用や、通い慣れた商店を利用したりと、個人を尊重し、なじみのある環境作りに努めている。また、デイサービスセンター利用者等の面会もあり継続した交流ができている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入所者同士の関係については、職員間で情報の共有がされている。また、その時々の感情の変化による関係が悪化しないよう職員が調整役となり、役割や関係が保たれるように対応している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	状態の変化等によってグループホームでの生活が困難となった際は、併設の特別養護老人ホームへの入所を検討する等、継続した関係が保てるよう説明している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、個人の思いや生活の要望について伺い、可能な限り取り入れている。また、言動などからも思いを汲み取るように努めている。思いを伝えることが困難な人には、家族から情報を得るなどして意向を把握している。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接の際に、生活歴等の個人情報を取得する目的を説明をし、同意を得た上で把握に努めている。また、入居後の気付き等は、面会などを通じて情報の交換を行っている。これまでのサービス利用状況については、ケアマネージャーや家族、本人から必要な情報提供を受けて把握に努めている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムや心身状況等は個別記録へ残している。また、できること、できないことの把握に努め、情報を共有している。得た情報は、口頭以外にも申し送り帳を活用し、いつでも確認できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族へ要望を聞き、意見を取り入れている。センター方式を活用し、介護計画に反映させている。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	要望を取り入れて作成をし、毎月、実施状況を評価している。期間が終了する前の見直しや状態が変化した際は、終了前であっても見直しを行っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に、日中の状況（午前、午後の様子）、夜間の状況を記録している。職員はいつでも確認できるようになっており、情報の共有に努めている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、買い物の援助等は、本人の希望に応じて支援している。また、外泊の際にも、家族の迎えが困難な際には、送迎を行ったり、グループホームでの生活状況等の情報を提供し、自宅でも安心して過ごして頂けるように努めている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議にて話し合いの場を設けている。誕生会や運動会では、地域住民やボランテイアの協力も得られている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人が他のサービスを利用した場合は、ケアマネージャーや他のサービス事業者と連絡出来る体制にある。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議へは、市の介護保険係が参加し、取り組みについては報告がされている。必要時は連絡をしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の他に本人、家族が希望する病院へ通院、受診援助を行い、適切な医療を受けられるようにしている。受診前後については、結果を報告している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医の定期的な往診があり、必要に応じて診察を受けている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設に看護師がおり、24時間連絡を取れる体制にある。毎日、心身状況を報告し、状態に変化が見られた際は、指示を仰ぎ、来園して対応できる体制となっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院へ情報を提供し、面会に伺う際は、不安感を持たせないような声掛けと励ましをしている。病院関係者や家族と情報交換をして、回復状況等の把握に努めている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の意向を尊重しながら、医師、看護師を交えて話し合いをもち、方針を決めている。また、申し送り帳で職員全員が把握できるようにしている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の希望を把握し、嘱託医や、かかりつけ医へ情報を提供し、意見を参考にして併設の特別養護老人ホームへの入所を検討している。急変の際には、すぐに対応できるよう看護師、嘱託医との連絡体制がとられている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族、関係者等で、これまでの生活状況やケア内容等について情報交換を行い連携に努めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、日常的に職員へ説明し意識の向上を図り実践できている。日々の関わり方についても、確認をして対応の徹底に努めている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	様々な場面でその人にとって、わかりやすい説明を心掛けている。食事提供については、嗜好を把握した上で、本人の状況を観察し、体調を伺ったり、その時々の希望に合わせて食事を提供している。日常的に一人ひとりの意向の確認をし、自己決定する場を作っている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはできているが、個人の体調等にも配慮し、希望を優先した対応をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣や身だしなみは、自己決定を主として、できない部分の援助をしている。理、美容店は、個人の希望を尊重し、通っていたなじみのある店を利用している。髪の長さ等も、自己決定していただいている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の管理栄養士が、献立作成している。嗜好に関しては、コミュニケーションを通して把握するほかに、残菜を確認し把握に努めている。提供の際も、摂取に繋がるよう形態を変える等している。食事準備、後片付けは、一緒に行い、職員も一緒に同じ物を食して、楽しい食卓となるような雰囲気作りに努めている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きな飲み物やお酒やおやつは個々の嗜好に応じて提供している。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をつけ、排泄間隔を確認し、声掛けを行っている。また、排泄サインを把握することで、トイレでの排泄に繋げている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、希望に添って援助している。やむを得ず変更となる際は、一人ひとりに確認をして、了承を得た上で行っている。また、毎日、足浴を行い清潔保持を行っている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムが保てるように努めている。寝付けない際は、話し相手となったり安心して休息が取れるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で、各自の役割ができており、行っていただいたことに感謝の気持ちを伝えている。また、経験等を発揮できる場を設定し、一人ひとりが主役となれるような働き掛けをしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額は、自己管理して頂いているが、紛失の可能性がある人は、了承のもと事業所で管理している。外出時等は、自分で支払いできるように、お金を渡すなど工夫をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に添って買い物等の外出援助を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に添って計画を立て実施しており、家族と出掛けることもある。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて日常的に連絡できるよう援助している。また、頻繁に希望がある人は、家族へ状況を伝え理解を得た上で協力を依頼している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関には、季節の花を生けたり、面会時に、声を掛ける等して訪れやすい雰囲気作りを心掛けている。面会時間については、定めているが、都合の良い時間に、いつでも訪れていただけるように説明し配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束による、入居者の心身面に与える影響について、説明をして理解し実践されている。身体拘束はもとより、接し方や言葉による拘束、服薬による影響などについても理解し実践されている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	状況の把握に努め、外出する気配がある際は、そっと声を掛けたり、一緒に外出して気分転換を図る等の対応に努めている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所からは、共有スペース（居間、食堂）を見渡せる作りとなっており、各取り組みを通して所在を確認し、自室で過ごされている人は、訪室回数を増やし把握に努めている。夜間は1時間毎の巡回の他に、状況に応じて巡回を増やし確認している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	所有物の把握と普段から保管している場所について把握し、個人の状況に応じて対応している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人の状況から、予測される危険を念頭におき、共通認識で取り組んでいる。事故発生の際には、家族へ報告し、事故報告書の作成と今後の予防対策を立て再発防止に努めている。また、生活行為から予想される事故、危険箇所の把握にも努め意識して対応している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応については、看護師の指導の他に職員一人ひとりが応急手当を習得して対応できるように努めている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、避難訓練を実施している。消火器の使用訓練や、緊急時の連絡体制についても毎月、非常呼集表を使用し訓練が行われている。また、併設施設で消防署立会いと地元分団の協力による避難訓練にも参加し実施している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個々に起こり得るリスク及び対策案について家族に報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタル測定を行い、また、顔色や日頃の様子との違いについても観察し記録に残し情報の共有に努めている。変化のあった際は、看護師へ報告し、指示を仰ぐと共に状況に応じてて受診援助を行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケースに服薬内容を記載し、把握できるようにしている。また、服薬内容が変化した際は、全員へ引継ぎを行うと共に記録を残している。服薬介助の際は、手渡しして服薬後の確認もしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や食材の工夫に努め、また、運動量を確保して自然排便が得られるよう努めている。排泄チェック表をつけ、排便が得られない際には、看護師へ指示を仰ぎ、個人の状況に合わせて下剤や浣腸を使用している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きの声掛けを行い、できない部分は援助している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の管理栄養士が作成している。食事量は記録し水分量は、概ね把握できている。摂取量が確保されない際は、看護師や管理栄養士へ報告して指示を仰ぎ対応している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等)	看護師の指示のもと、全職員がマニュアルに添って予防に努めている。インフルエンザの予防接種は毎年受けている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は、毎食後に食器乾燥機で消毒を行っている。使用物品は、漂白剤で毎日消毒を行うと共に、使用前にいたってもアルコールを噴霧し使用している。冷蔵庫の点検、清掃も毎日実施し、清潔保持に努めている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を置いたり、ポストや傘立てを設置したりと親しみやすいように工夫している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、装飾を行い季節感を感じ取っていただけるよう努めている。また、テレビの音量調節や食器を片付ける際の音、室温調整等にも配慮して安心できる空間作りを心掛けている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを設置し、くつろげるスペースを作っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた生活用品が各自持ち込まれている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、こまめに行い温度計と入所者の状態を見ながら室温調整を行っている。湿度計もみながら湿度調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレへ手すりを設置している。台所の使い勝手や高さに配慮し、調度品も家庭的なものを取り入れ気軽に使用できる物を準備している。洗濯台も、移動式の物を使用し、取り組めるように配慮している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋毎に時計とカレンダーを設置し時間等の感覚を維持できるよう努めている。現在できる事、可能性がある事については、職員間で情報を共有し、共通認識を持って対応している。混乱や失敗が見られた際には、対応方法や状況について話し合いを持ち対応に活かしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり、畑作りを行う等、日常的に楽しみが持てるような環境作りに努めている。		

（　　分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎週木曜日の夕食は、希望食を取り入れ、好評を得ています。玄関の花や野菜を育てることにより、職員が指導を受ける場面も多く、それが利用者の意欲や達成感に繋がっている。日常の会話や接し方に注意し、本人の意欲を引き出すようにしている。